

教育後援会だより

「効果音」

校長 二瓶 晃一

効果音というものがある。

映画やテレビドラマ等で演出の一環として付け加えられる音のことである。例えば映画での楽しい場面であれば、楽しそうな音楽を流して、その楽しさをより際立たせる効果がある。

ところで、学校は様々な音が出るところである。800名の生徒がいれば、800種類の生徒の声であふれる。放課後の部活動の時間になれば、校庭からは野球部やサッカー部等が一生懸命に練習に励む大きな声が響き渡る。吹奏楽部の練習の音が遠くまで轟くことがあるかもしれない。

これは、県外のある学校での出来事である。

この学校は伝統校で部活動も盛んである。放課後になれば、校庭では野球部やサッカー部等が、大きな声を出しながら練習に励んでいた。しかし、現在は学校周辺の住民から「うるさいので何とかしてもらえないか。」との訴えがあり、練習時間を制限したりしながら周辺の方々に迷惑とならないようにしているそうである。

学校周辺の住民にとって学校から出る音は、家庭での憩いや安らぎの時間を奪う騒音でしかないのだろう。

しかし、私は本校の放課後の時間が好きである。校庭から聞こえる部活動の生徒の声や野球部の生徒が「カキーン」とボールを打つ音。吹奏楽部の各パートを練習する音。様々な音が私には心地よく響く。

音とは空気の震えである。音を出しているものが震えると、それが空気に伝わりその震えた空気が耳にたどり着く。このことを考えれば、私は音を通して一人一人の生徒をコミュニケーションを取っているのかもしれない。そのことが私にとって心地よくさせているのだろうか。

私は本校が、周辺住民にとって騒音を出す学校とはなっていない。生徒たちがひたむきに部活動に打ち込む姿から出される音が騒音となるはずはないと考えるが。映画やテレビドラマでの効果音のように、学校をより際立たせるものであることを願う。

* * * *

最後になりましたが、教育後援会の皆様には部活動ばかりでなく様々な場面で本校の教育活動に対してご支援いただきありがとうございます。お陰様で生徒たちも思い存分その力を発揮しています。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。